

「絶対に戦争をしてはいけない理由」

2022年05月30日

「港南台9条の会」は、毎月第四土曜日の午前十時から例会を開いている。時に、講師を招いて学習会的な学びの会も持つが、基本的には「平和の語り部」が中心である。戦争や平和、そして、憲法についての個人的な体験や思いを自由に語ってもらい、その後、感想を語り合っている。

5月の例会は、渡辺敦雄氏が「絶対に戦争をしてはいけない理由」と題して、話された。101歳で亡くなった母親は、夫が1946年に戦地から生きて帰ってきた時ほど、嬉しいことはなかったと話していた。父親が無事に帰還できたから、自分が生まれたということから話し始めた。東京大学工学部を卒業して、東芝に入社した。そして、福島、女川、浜岡などの原子力発電所の基本設計を担当した。その時は、原発の危険性については考えなかった。米国のスリーマイル島の事故、チェリノブイリの事故を契機に、原発は人間には扱えないと知り、現在は、様々な原発訴訟で、知識を生かして、意見書提出や意見陳述をしている。また、ピースアゴラの世話人をしている。ピースアゴラとは、軍隊も兵器も捨て真に平和な非武装中立国家を実現しようとの理想をかかげて集う一般市民の会である。ちなみに、日本国憲法九条は「戦争の放棄、軍備および交戦権の否認」「本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と謳っている。この憲法は人類史上、世界でもまれな、誇り得る憲法で、コスタリカも戦力不保持を掲げ、不戦国家として立っている。自衛権を持つということは戦力を持つことで、戦争に巻き込まれ、死につながる。ロシアの侵略に、ウクライナは自衛戦争で対応したから、多くの死者を出し、甚だしい環境破壊を受けた。武器を持たず、戦わなければ、殺されない可能性が高い。侵略されたら、白旗をあげ、命を守ることを最優先し、非武装、中立、不服従を貫く。自衛隊は災害救助即応隊に改編する。日米安保条約も破棄し、米軍は日本から出てもらう。非武装中立を宣言し、侵略されない国家の理念を守りぬく。渡辺氏は、自論の絶対平和主義を主張され、理想を追い求めることが大切だと力説した。そして、原発保有国において、原発を攻撃されたら、原爆の数百倍の放射能汚染で、10年以上、住めない国になる、「ミサイル攻撃を防げる原発はない」と言われた。

「九条の会」は、2004年に大江健三郎氏や澤池久枝氏など9名の文化人が、9条を守ろうと呼びかけ、これに応じて、全国各地に雨後の筍のように発足した会である。この時、9条に関し、憲法の条文通りの戦争放棄、軍備、交戦権の否認の立場か、自衛権は世界に認知されている権利なので自衛隊は認める立場なのか、詰めた議論をせずに、草の根の平和運動を進めて来た。渡辺氏の明快な話は、この問題についての問いかけになった。抑止力のための戦力と言った場合、軍備拡張に歯止めがかけられなくなり、戦争になることもあり得る。しかし、全く無防備のままでいいのかと言われると、やはり不安が残る。ロシアのウクライナ侵略を機に、政府は憲法改定、攻撃能力の増大、軍事費の大幅な増額を目指している。これには大反対であるが、強権国家の横暴を見て、自衛に限定した戦力は認めていいのではないか。敵対関係を煽り、イデオロギーの緊張を徒に高めるようなことは慎むべきで、戦争を起こさないように、国家間の信頼関係を醸成すべきである。私は、戦争しないと経済が立ち行かない米国に付き従う政府の政策に深い危惧を感じている。